

「したいこと」を「なじみの」環境でかなえるために

充実した社会参加で元気になる

地域のつどいや買い物などを通じた地域との交流により、日常的な助け合いや意欲向上につながります。また、介護サービスの利用に伴い「なじみの」環境から離れかけていた高齢者も、社会参加を続けることでこころとからだの元気を取り戻すことができます。



生活支援・介護予防・社会参加を併せた支援と連携で選択肢を増やす!

高齢者の皆さんの「したいこと」を「なじみの」環境でかなえるためには、困りごとの解決などの生活支援だけでなく、介護予防や社会参加を意識した支援が重要です。

高齢者の皆さんの個別ニーズをよく知っている地域包括支援センターやケアマネジャーなどの専門職、地域貢献活動を行う医療福祉介護の事業所や民間企業など多様な機関、コーディネート機能を持つ生活支援コーディネーターとの連携により、高齢者の皆さんの生活を支援する選択肢を増やすことができます。



資源を活用し、協働して支援していきましょう!

『これまでの成果を活かし、分野を超えた多様な連携で地域の支え合いをつくる』

生活支援コーディネーターの皆さんが取り組んでこられた活動は、特に住民主体の通いの場が全国で11万箇所超、参加者180万人超という形で成果を見ています。一方でコロナ禍もあり休止や再開困難な場もたくさんあります。また、活動期間も長くなり、参加者も高齢化し継続困難なグループも出てきています。今後は新規の通いの場を増やすだけでなく、既存の場への継続支援、通いの場に来ていない方々の生活支援の提供など、生活支援コーディネーターの仕事の範囲は(本来の使命でもありますが)より広がってくると思います。そして、住民主体だけではなく、地域の企業・団体、飲食店など、福祉や介護分野以外の地域の多様な資源に協力をお願いして、関わっていただくことが欠かせません。対象も高齢者に限定する必要はなく、障がいのある方、あるいは子育て中の方など、「生活の支えが欲しい方」、「人とのつながり

を求めている方」は地域にたくさんいらっしゃいます。こういった方、分野を超えて地域づくりに関わっていく動きが大切になっていきます。

折しも令和3年度から重層的支援体制整備事業がスタートしています。地域づくり、専門職による相談支援の双方で分野を超えた連携が必要な時代に入っています。

ぜひ生活支援コーディネーターの皆さんも、これまでの成果は大いに胸を張っていただいて、さらにここから分野や連携する相手について従来の枠から飛び越えていくことをお考えいただければと思います。

岩名 礼介氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
共生・社会政策部長/主席研究員
広島県地域包括ケアシステム初任者セミナー講師
2016年 厚生労働省「新しい総合事業の導入セミナー」企画委員会委員
2008~2018年度 地域包括ケア研究会事務局



令和5年3月制作

高齢者の自立支援に係る研修ツールIII

みんなでほっとかん地域をつくろうや

～「したいこと」を「なじみの」環境でかなえるために～



生活支援
コーディネーターの
役割・取組って何?

高齢者が元気になる
充実した社会参加とは?



地域の専門職と
連携する重要性とは?



広島県地域包括ケア
推進センター

スタッフ **包括 進**
(ほうかつ すずむ)

新人もベテランも必見!

- 生活支援コーディネーターとケアマネジャーなど地域の専門職との協働のきっかけに!
- 多様な専門職にインフォーマル資源を知ってもらうために!
- 地域活動に取り組む地域住民のイメージづくりに!

こちらのHPから
動画をご視聴
いただけます



生活支援コーディネーターや多様な専門職等の協働により、高齢者がなじみの環境で自分らしい生活を続けられるようにこのDVDを制作しました。 監修/広島県 制作/広島県地域包括ケア推進センター

生活支援体制整備事業って何？

介護予防につながる地域の支え合いづくり、高齢者の社会参加の促進を目的としています。高齢者が「なじみの」環境で「したいこと」を人生の最後まで続けることを目指す地域包括ケアシステム推進の事業のひとつであり、土壌づくりといえます。

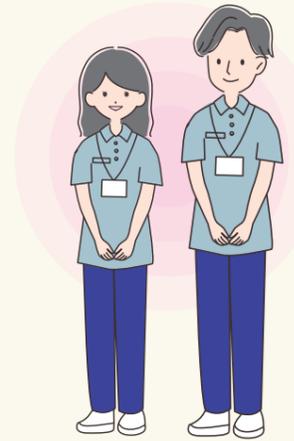
介護保険法の地域支援事業の「地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備その他のこれらを促進する事業」として位置づけられています。(第115条の45 第2項第5号)



出典：平成28年3月地域包括ケア研究会報告
「地域包括ケアシステムと地域マネジメント」

生活支援コーディネーターによる地域の支え合いづくりと橋渡しの取組

生活支援コーディネーターは、地域の中で支え合いとしての生活支援体制の整備を行い、介護予防につながるよう高齢者の社会参加促進に取り組んでいます。地域資源を把握しているため、新たな活動や個別ニーズを支援し、それぞれを地域の中で橋渡しを行います。



他にもいろんな取組があります！

～このDVDでご紹介する県内の取組～

地域にどんな資源があるのか気になりますね！



生活支援コーディネーターの役割や取組

地域住民の思いや活動を支援する生活支援コーディネーターの視点や工夫について事例をご紹介します。



介護予防の視点 多世代交流のねらい

安芸郡坂町

町内のお寺を活用したみのり食堂の活動

～多世代が交流する地域食堂の立ち上げ支援～

普段から地域との信頼関係がある生活支援コーディネーターに、お寺で「地域食堂をしたい」と相談があり、食堂立ち上げを支援しました。活動による介護予防、多世代で気にかけてあう地域づくりを行っています。



■坂町地域包括支援センター 082-885-3701



住民主体の活動 多機関の協働・多世代の連携

広島市東区

戸坂ともいきネットワーク

～地域全体が元気になるための地域住民・専門機関ネットワーク～

地域共生社会の実現に向けて、住民と専門機関が定期的に活動を行っています。多機関のネットワークを活用し、住民にとってより暮らしやすい地域を目指しています。



■広島市東区社会福祉協議会 082-263-8443 / ■広島市戸坂地域包括支援センター 082-516-0051



住民の主体性醸成への関わり 支えられる側から支える側へ

福山市神辺町

住民による有償生活支援グループ夢かなえ隊

～助け合う気持ちを育み、活躍の場をつくる～

生活支援コーディネーターは、「地域のことを自分たちで解決する」という住民の思いを尊重し、生活支援グループの立ち上げを支援しました。生活の困りごとを気軽に相談できる場所だけでなく、住民の活躍の場所にもなっています。



■福山市社会福祉協議会 084-928-1333



個人の元気が地域に広がる 個人と地域をつなげる

庄原市東城町

個別支援から地域支援へつなげることの大切さ

～支え手を増やし地域をつくる～

体調不良、介護疲れがある高齢者の「安心して外出したい」という思いをかなえるため、生活支援コーディネーターは地域サロン世話人等と情報共有し、本人も地域も安心して生活できる方法について一緒に考えました。



■庄原市社会福祉協議会 0824-75-0345

地域の専門職や多様な機関との連携

これまでは支援や介護が必要になると、「なじみの」環境から切り離されがちでした。生活支援コーディネーターと地域の専門職が連携し、高齢者の皆さんや地域の元気につなげた事例をご紹介します。



なじみの関係による互助活動への発展 専門職・介護利用者の地域参加の取組

地域の活動や交流を通して元気になる九丁目サロン

～様々な住民が参加できる地域のきっかけ作り～

住民主体の体操の場に介護サービス利用者も参加できるよう、生活支援コーディネーターは地域の専門職に見学会を企画しました。地域のつながりの中でいきいきと活動に参加する高齢者の姿を見て、ケアマネジャーは、具体的に活動の紹介ができ、積極的に利用者の社会参加を促すきっかけとなっています。

広島市安佐南区



■広島市東原・祇園東地域包括支援センター 082-850-2220



地域課題解決に向けた法人の後方支援

尾道市向島町

介護施設の買い物移動支援を通じた気持ちのリハビリ

～医療法人による地域貢献活動の支援～

買い物に困っている高齢者の声から、介護老人保健施設がスーパーまでの移動支援事業を開始しました。買い物に出ることで高齢者と社会のつながりを保つことを目指しています。生活支援コーディネーターは事業開始までの助言、ケアマネジャーへの広報や個別ニーズへのつなぎを行っています。



■尾道市向島地域包括支援センター 0848-41-9240



「したいこと」を続ける支援 ケアマネジャーと協働した個別支援

地域の高齢者のつながり支援

～介護が必要になってもなじみの関係を維持する～

地域サロンの運営の役割を担っていた高齢者が、介護サービスの利用と併行して地域サロンへの参加も継続できるよう、生活支援コーディネーターとケアマネジャーが調整しました。連携した支援により、高齢者が地域のつながりと切り離されない生活を続けられています。

広島市安佐北区



■広島市清和・日浦地域包括支援センター 082-810-4688